

収録・解説 酒井董美

語り手 山口忠光さん  
(明治40年生まれ)

昭和63年8月19日収録

## あらすじ

昔、1人暮らしの男がおったけど、その男は欲ばりだった。

あるとき、「わたしは飯も何にも食わいでもええけえ、嫁さんにしてください」と来た女がいたので嫁にした。

何日たっても飯を食へないので、ある日、「おれあ、ちょっと用があるけえ出てくるけえ」と出たふりをして、あまだへあがってのぞいて見たら、その女が釜いっぱい飯を炊いて、そこから髪を分けて、その中へ飯を取っては入れ、取っては入れして、そこから髪を

## 食わず女房

(東伯郡三朝町大谷)



イラスト・福本隆男

## 全国各地でよく聞く昔話

元の通りにしてしまっ

ら顔で戻って、明るく「まあ、帰りますけえ」日に「長いことおってもと女は言ったと思ったらったが、おまえ、いんら、その男を桶の中へ投で「せ」と言った。 「気に入らんらいにた。その男は桶から出よ

いと、その女が休憩し二度と蜘蛛の化けは来なたところの上の方から木の枝が出ていた。男はその木の枝へさばって、ぐと浮き上がった、やと助かった。

それで今でも旧の五月の節句にやその屋根を替でずっと伝わってきただけえ、それでよう覚え

た。 「やっぱりこいつ、蜘蛛の化けだったか。しから買あちやる」と男は桶

分には、桶を一つ買あてて「そうな。 「桶な 女は桶を担いで出かけ

「おーい、もどった、もどった。お

昔こぼり。

たが、男は桶を担いで出かけ

「おーい、もどった、もどった。お

「おーい、もどった、もどった。お

語り手の山口忠光さんの話では、魔物を退治する茅について「昔は山を

たが、男は桶を担いで出かけ

「おーい、もどった、もどった。お

「おーい、もどった、もどった。お

語り手の山口忠光さんの話では、魔物を退治する茅について「昔は山を

たが、男は桶を担いで出かけ

「おーい、もどった、もどった。お

「おーい、もどった、もどった。お

語り手の山口忠光さんの話では、魔物を退治する茅について「昔は山を

たが、男は桶を担いで出かけ

「おーい、もどった、もどった。お

「おーい、もどった、もどった。お

語り手の山口忠光さんの話では、魔物を退治する茅について「昔は山を

たが、男は桶を担いで出かけ

「おーい、もどった、もどった。お

「おーい、もどった、もどった。お

語り手の山口忠光さんの話では、魔物を退治する茅について「昔は山を

(元鳥取短期大学教授 (水曜日に掲載)